

- 1 男性の家事・育児参画に関する現状等
 - (1) 男性の家事・育児参画に関する意識等
 - (2) 男性が家事・育児に参画することによる変化等
- 2 その他の参考資料

男性の家事・育児への参画（状態）

- 男性自身が家事・育児を頑張っていると思っているのは46.8%、パートナーから見て頑張っていると思っているのは43.1%であった。
- 男性自身で家事・育児を頑張っていないと思っているのは20.8%、パートナーから見て頑張っていないと思っているのは30.4%であった。

回答者	頑張っている	どちらとも いえない	頑張っていない
男性 (n=1171) (自身について)	46.8%	32.4%	20.8%
女性 (n=873) (パートナーについて)	43.1%	26.5%	30.4%

(R5広島県少子化対策・子育て支援に関する調査)

家事・育児を頑張っていないと思う理由

- 家事・育児を頑張っていないと思う理由について、男性自身は、仕事が忙しい（35.7%）が最も高く、次いで仕事を頑張っているから、家事・育児スキルが不十分との回答割合が高かった。
- 女性（パートナー）から見て回答割合が最も高かったのは「家事・育児を自分事だと思っていないから」（49.4%）であり、次いで仕事が忙しい、仕事を頑張っているから、家事・育児スキルが不十分との回答割合が高かった。

	自身の家事・育児のスキルが不十分で時間がかかるから	パートナー(配偶者)が自分に家事・育児を任せられないから	家事・育児は、パートナー(配偶者)の役割だから	自身の仕事が忙しく、家に帰る時間が遅いから	家事・育児をしたと思わないから	子どもが自分になつからないから	家族と離れて暮らしているから	自身は仕事を頑張っているから	家事・育児を頑張らなくても、よい／問題ないから	その他	特になんたなく
男性 (自身について) n=244	20.8	8.3	7.8	35.7	9.0	2.8	2.3	21.6	13.5	2.8	16.6
女性 (パートナーについて) n=265	31.2	21.6	12.0	40.3	49.4	7.9	1.9	33.7	5.8	3.8	3.7

男性の家事・育児への参画（意識）

- 男性自身について、47.7%が家事・育児を頑張りたいと思っている。
- パートナーからみて、47.8%が家事・育児を頑張っ欲しいと思っている。

・(自身について)家事・育児をもっと頑張りたいと思うか

回答者	頑張りたい	どちらとも いけない	頑張れない
男性 (n=1171) (自身について)	47.7%	41.1%	11.3%

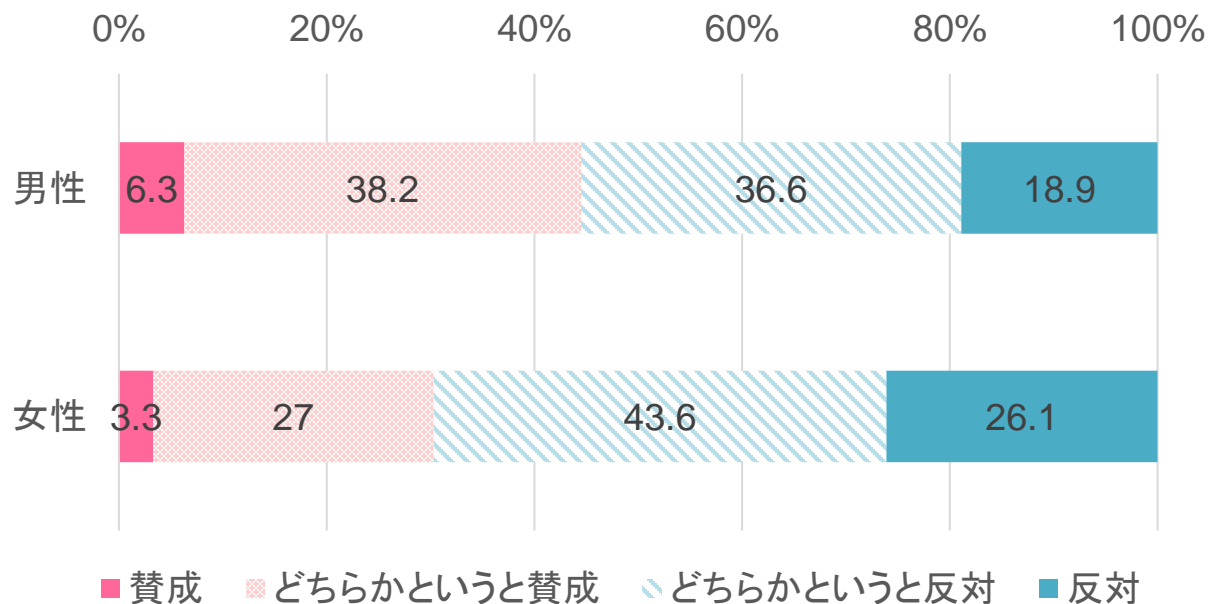
・(パートナーについて)家事・育児をもっと頑張っ欲しいと思うか

回答者	頑張っ欲しい	どちらとも いけない	頑張らなくてよい
女性 (n=873) (パートナーについて)	47.8%	35.0%	17.2%

性別に関する意識①

- 『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』に対する意見は、
- ・男性では「賛成計」44.5%、「反対計」55.5%
 - ・女性では「賛成計」30.3%、「反対計」69.7%

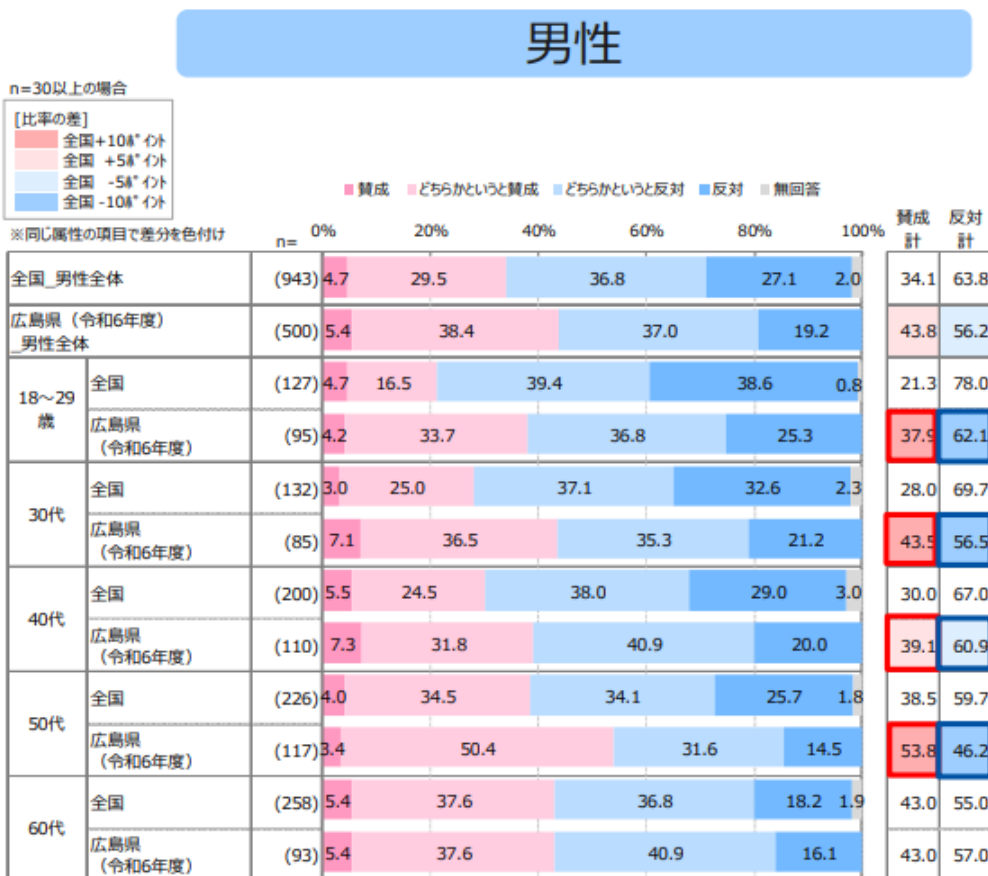
問:「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。
次の中から、あなたの気持ちに近いものを1つだけ選んでください。



(令和6年度男女双方の意識改革に係る調査結果(広島県))

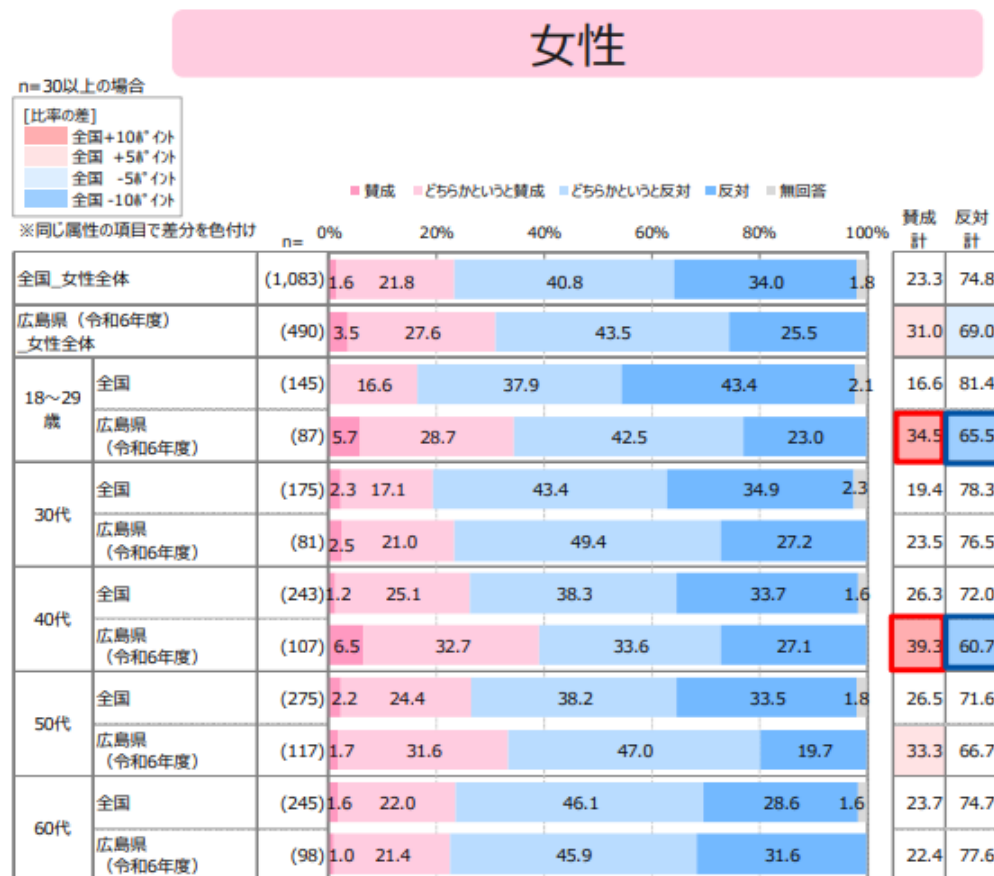
(参考) 全国との比較 (夫は外で働き、妻は家庭を守るべき)

- 年代別 × 男性で見ると、18～50代は全国と比べて「賛成計」が高く、「反対計」が低い。
- 年代別 × 女性で見ると、18～29歳と40代は全国と比べて「賛成計」が高く、「反対計」が低い。
- 男女ともに、60代は他の年代と比べると、全国と広島県の差は小さい。



※全国_男性全体については、内閣府のデータを18～60代ベースで算出。割り戻して計算しているため、概算値。

※賛成計：「賛成」+「どちらかという賛成」
 ※反対計：「どちらかという反対」+「反対」



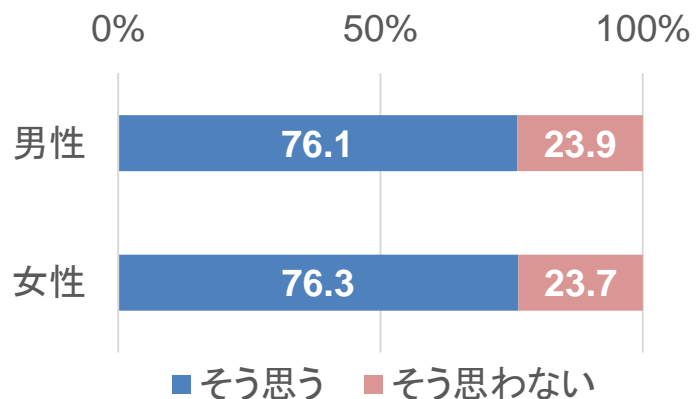
※全国_女性全体については、内閣府のデータを18～60代ベースで算出。割り戻して計算しているため、概算値。

※賛成計：「賛成」+「どちらかという賛成」
 ※反対計：「どちらかという反対」+「反対」

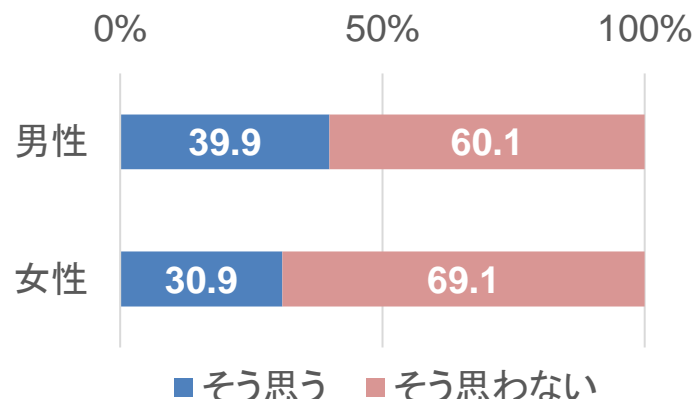
性別に関する意識②

- 男女の役割に対する意見では、『男性は仕事をして家計を支えるべきだ』が「そう思う計」約76%。
- 『家事・育児は女性がするべきだ』など、その他の項目についても、「そう思う」との回答が2～4割。

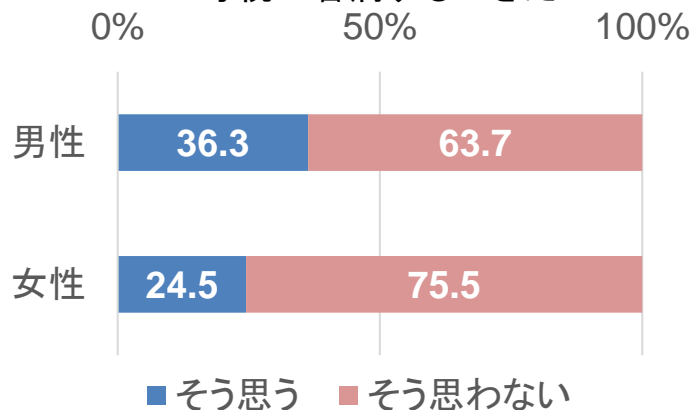
男性は仕事をして家計を支えるべきだ



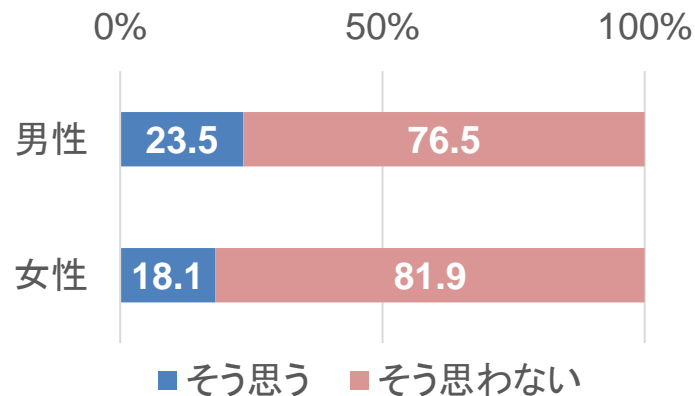
家事・育児は女性がするべきだ



共働きで子どもの具合が悪くなった時、
母親が看病するべきだ



男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない



(令和6年度男女
双方の意識改革
に係る調査結果
(広島県))

(参考) 全国との比較 (男女の役割に対する意見)

- 広島県_男性全体は全国と比べて全ての項目で高い。特に、『男性は仕事をして家計を支えるべきだ』は全国と比べて28pt高い。
- 男性×年代別でみると、いずれの年代でも『男性は仕事をして家計を支えるべきだ』は全国より20-30pt高い。30代は『組織のリーダーは男性の方が向いている』、50代は『家事・育児は女性がするべきだ』が全国と比べて20pt以上高い。広島県_女性全体も男性全体と同様の傾向。女性×年代別でみると、いずれの年代でも『男性は仕事をして家計を支えるべきだ』は全国より25-40pt以上高く、男性より差が見られる。

(%)

項目名	データ	男性						女性					
		計	年代					計	年代				
			20代	30代	40代	50代	60代		20代	30代	40代	50代	60代
n数	広島県 (令和6年度)	(484)	(79)	(85)	(110)	(117)	(93)	(476)	(73)	(81)	(107)	(117)	(98)
	全国	(5452)	(977)	(1230)	(1065)	(1083)	(1097)	(5384)	(1061)	(1094)	(1070)	(1075)	(1084)
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	広島県 (令和6年度)	76.2	72.2	72.9	70.9	82.1	81.7	77.1	75.3	80.2	72.9	78.6	78.6
	全国	48.7	43.9	43.0	44.2	51.9	60.7	44.9	36.0	39.9	45.6	50.0	52.7
	差分	27.5	28.3	29.9	26.7	30.2	21.0	32.2	39.3	40.3	27.3	28.6	25.9
家事・育児は女性がするべきだ	広島県 (令和6年度)	39.0	29.1	40.0	30.0	52.1	40.9	30.9	31.5	28.4	29.0	32.5	32.7
	全国	27.3	22.6	23.4	28.2	31.1	31.2	20.7	15.5	17.4	23.0	23.4	24.4
	差分	11.7	6.5	16.6	1.8	21.0	9.7	10.2	16.0	11.0	6.0	9.1	8.3
男性は出産休暇/育児休業を取るべきでない	広島県 (令和6年度)	22.7	12.7	29.4	24.5	23.9	21.5	18.5	11.0	18.5	24.3	22.2	13.3
	全国	15.6	18.2	16.3	16.3	15.6	11.6	9.4	9.7	10.2	10.8	9.1	7.1
	差分	7.1	-5.5	13.1	8.2	8.3	9.9	9.1	1.3	8.3	13.5	13.1	6.2
共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	広島県 (令和6年度)	36.6	27.8	40.0	36.4	40.2	36.6	24.8	23.3	16.0	28.0	26.5	27.6
	全国	24.9	24.2	22.4	24.6	27.1	26.6	20.3	16.8	17.6	21.7	21.5	24.0
	差分	11.7	3.6	17.6	11.8	13.1	10.0	4.5	6.5	-1.6	6.3	5.0	3.6
組織のリーダーは男性の方が向いている	広島県 (令和6年度)	39.0	35.4	51.8	35.5	41.9	31.2	29.4	30.1	30.9	27.1	34.2	24.5
	全国	26.1	25.5	27.2	26.2	26.0	25.6	20.9	18.8	20.1	22.0	21.8	21.7
	差分	12.9	9.9	24.6	9.3	15.9	5.6	8.5	11.3	10.8	5.1	12.4	2.8

※10pt以上スコアに差分がある場合、赤字で色付け

※広島県 (令和6年度) が全国を下回る場合、青字で色付け

(参考資料)

1 男性の家事・育児参画に関する現状等

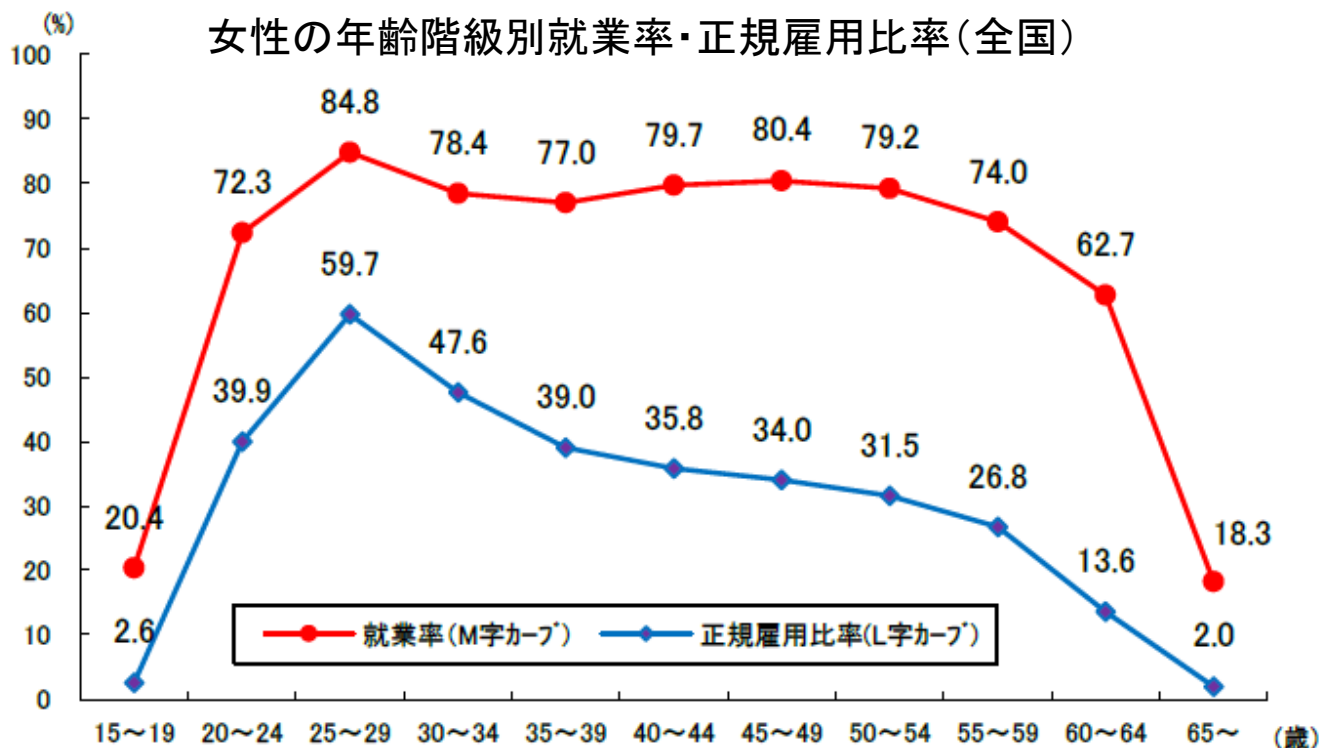
(1) 男性の家事・育児参画に関する意識等

(2) 男性が家事・育児に参画することによる変化等

2 その他の参考資料

女性の就業率・正規雇用比率

- 女性の就業率は増加基調にあり、いわゆるM字カーブについては底が浅くなってきている。
- 一方で、正規雇用比率は20歳代後半をピークに、その後は右肩下がり低下している（いわゆるL字カーブ）



(注) 就業率: (就業者 / 15歳以上人口) × 100

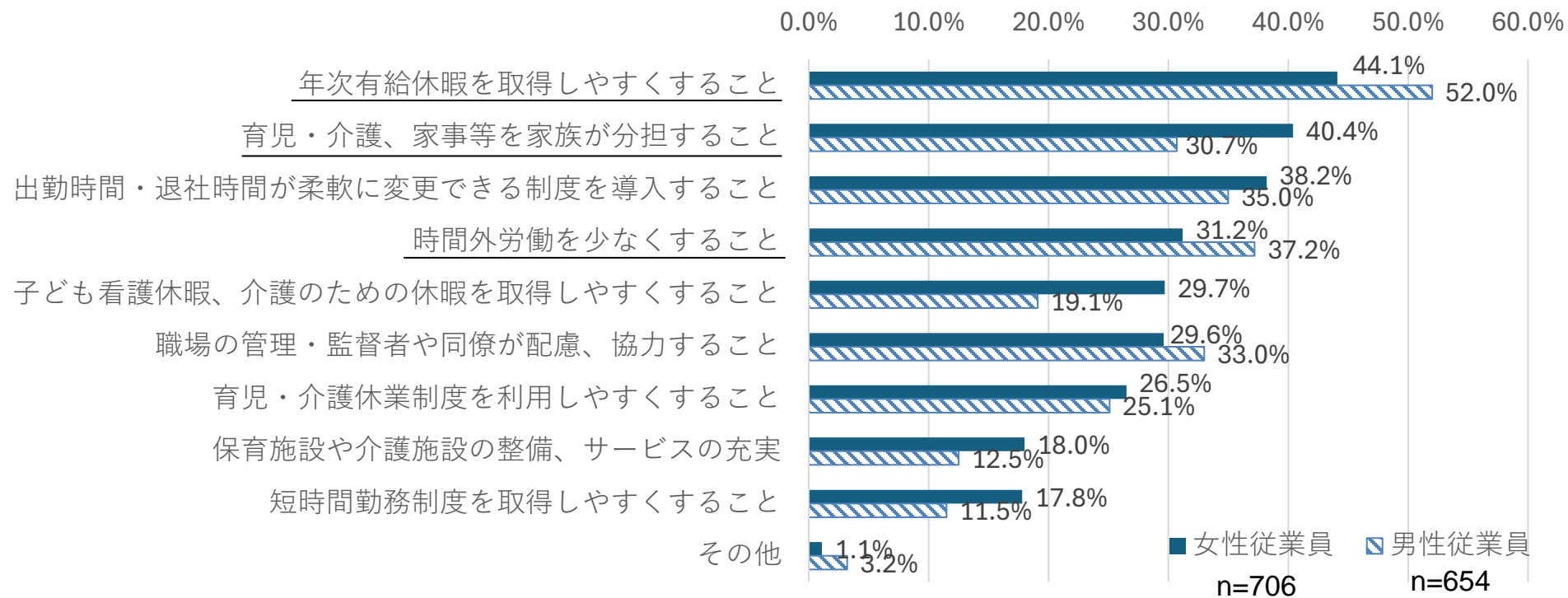
正規雇用比率: (正規の職員・従業員 / 15歳以上人口) × 100

資料: 総務省「労働力調査(基本集計)」(令和4(2022)年度)

仕事と家庭の両立のために重要なこと

- 仕事と家庭の両立のために重要なこととして最も多くの人を選んだのは、「年次有給休暇を取得しやすくすること」であった。
- 次いで多いのは、女性従業員は「育児・介護、家事等を家族が分担すること」、男性従業員は「時間外労働を少なくすること」となっており、性別によって違いが表れている。

仕事と家庭の両立のために重要な取組（複数回答）

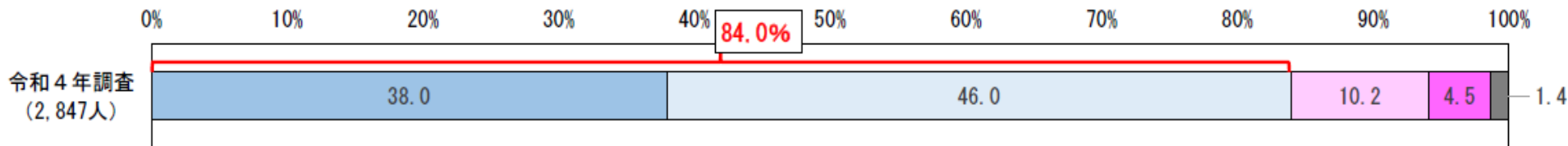


育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍との関係

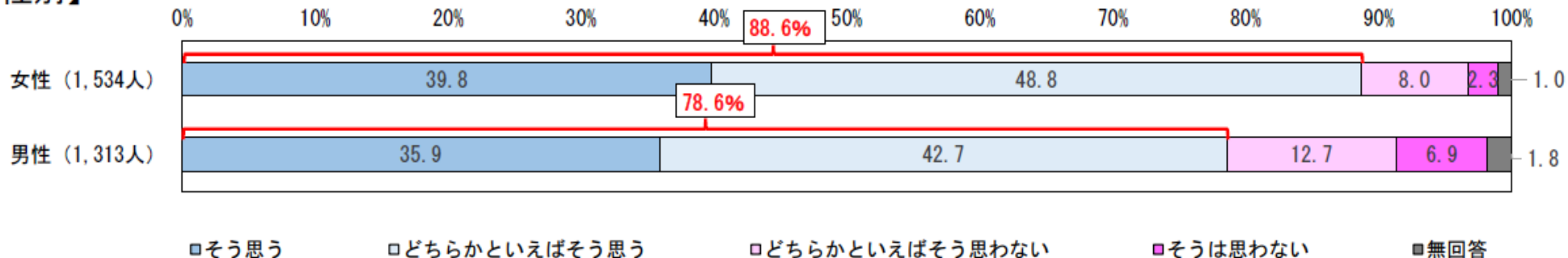


➤ 「育児などに女性の方がより多くの時間を費やすことが、職業面での女性活躍が進まない要因の一つ」という意見について、「そう思う」と回答した割合は、全体で84.0%。性別では、女性は9割弱、男性は8割弱が「そう思う」と回答。

【全体】



【性別】

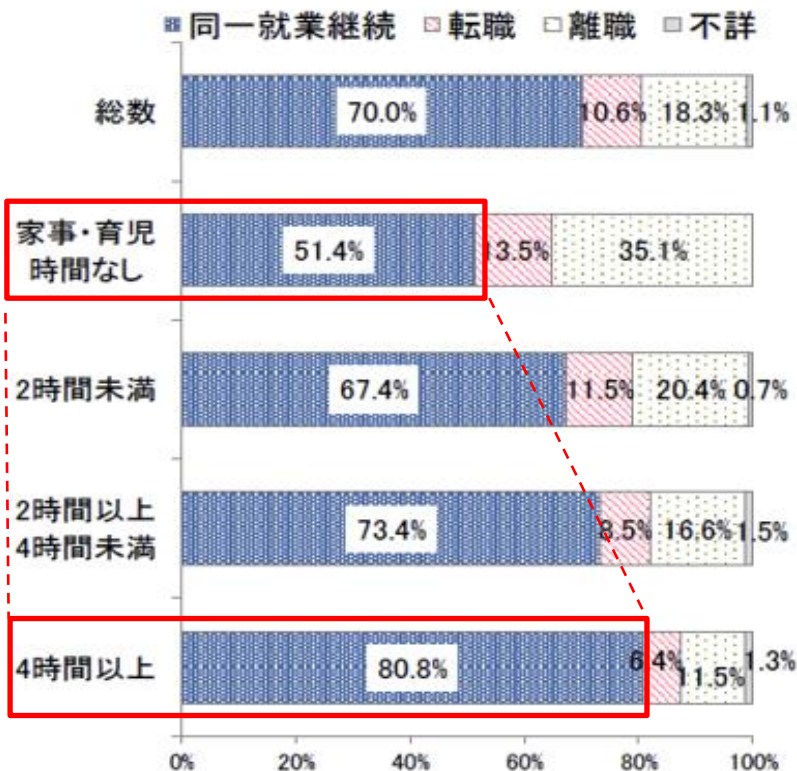


(内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査))

男性の家事・育児時間と妻の就業継続、第2子以降の出生割合

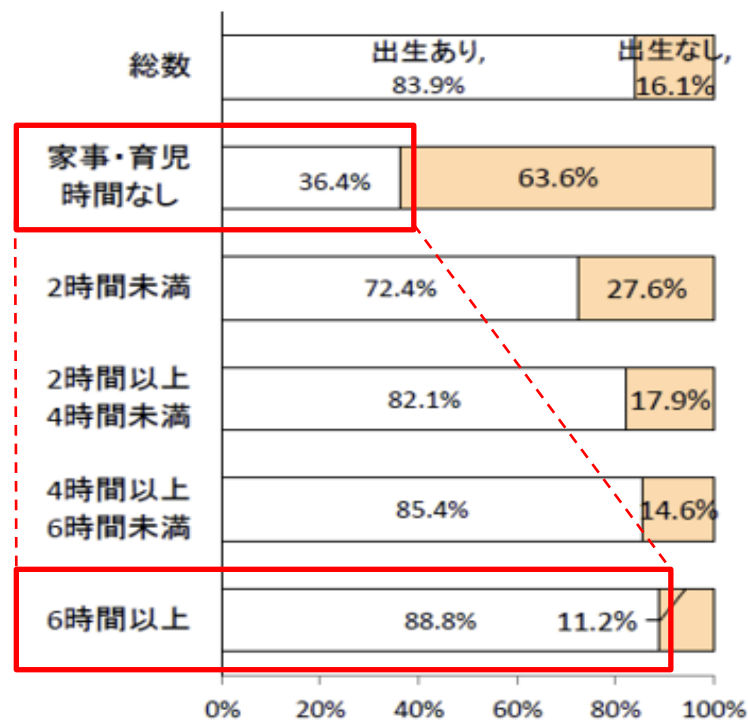
➤ 夫の家事・育児時間が長いほど、妻の就業継続割合が高く、第2子以降の出生割合も高い傾向がある。

【夫の平日の家事・育児時間別にみた妻の出産前後の継続就業割合】



資料出所：厚生労働省「第10回21世紀成年者縦断調査（2012年成年者）」（調査年月：2021年11月）より作成

【夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生割合】



資料出所：厚生労働省「第10回21世紀成年者縦断調査（2012年成年者）」（調査年月：2021年11月）より作成

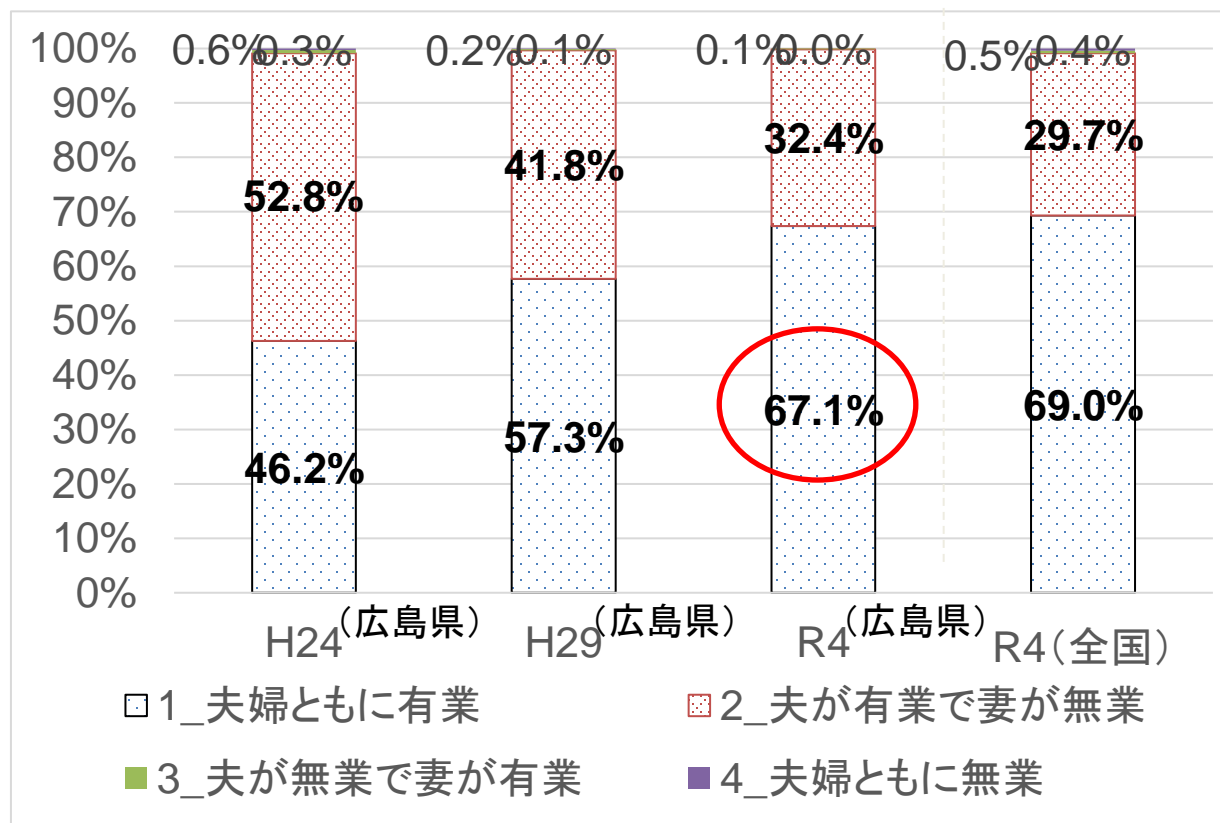
- 1 男性の家事・育児参画に関する現状等
 - (1) 男性の家事・育児参画に関する意識等
 - (2) 男性が家事・育児に参画することによる変化等

- 2 その他の参考資料

広島県における共働きの状況

- 共働き世帯（夫婦ともに有業）の割合は増加傾向にあり、R4では67.1%（全国平均69.0%）。
※6歳未満の子を持つ世帯かつ夫婦と子供から成る世帯

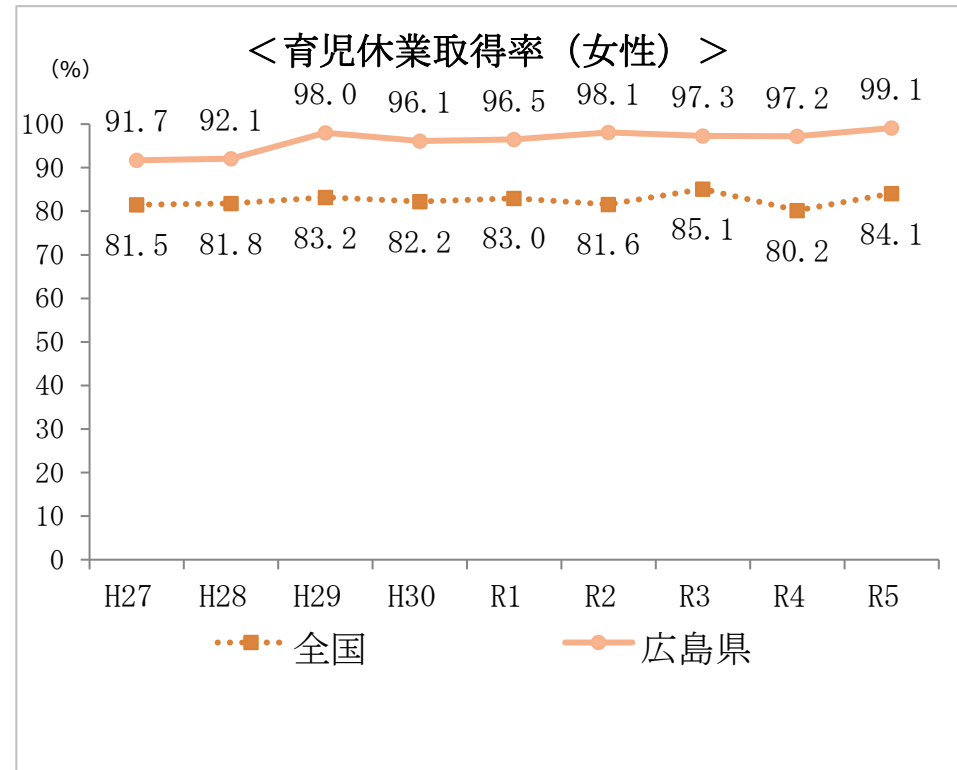
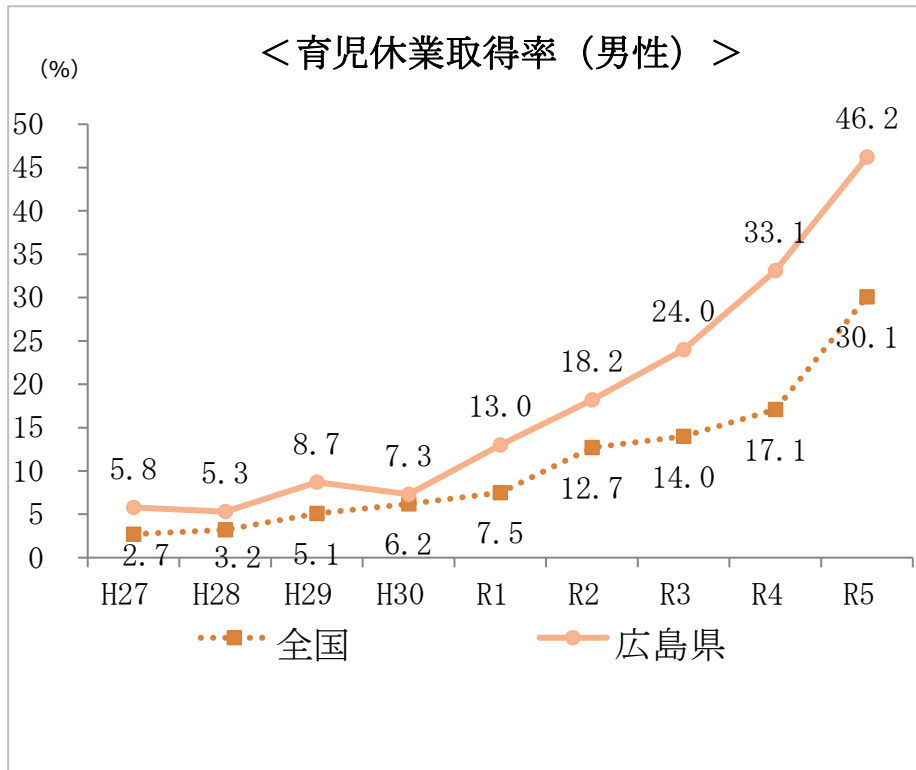
就業状況別の世帯割合



(令和4年就業構造基本調査 第140表)

育児休業取得率の推移

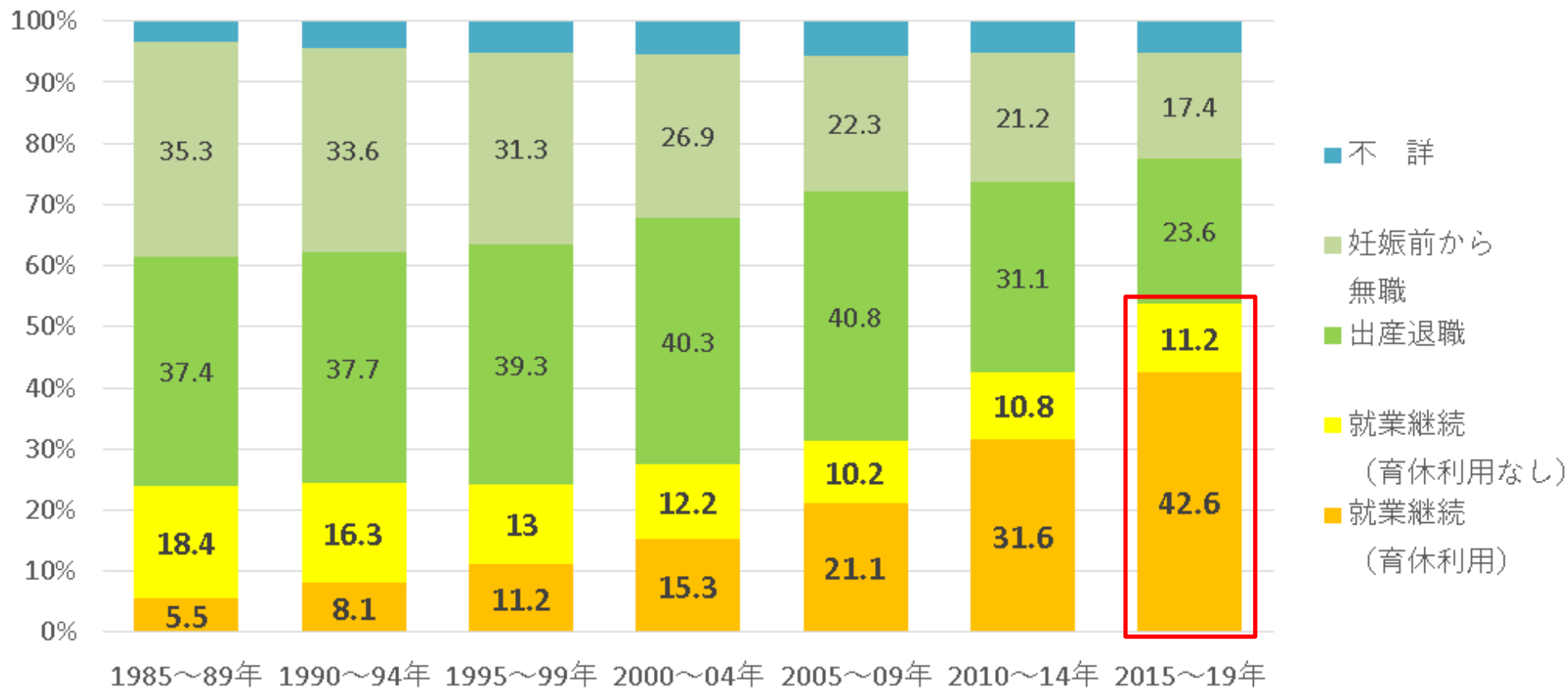
- 県内企業の男性の育児休業取得率は、全国の取得率を上回っており、R5では約2人に1人（46.2%）が取得している。
- 女性の取得率も全国と比較して高い傾向にあり、近年は95%以上を維持しているが、男性と女性の取得率には、依然として、大きな開きがある。



（厚生労働省「雇用均等基本調査」及び「広島県職場環境実態調査」を基に子供未来応援課作成）

第1子出産後の就業継続

➤ 2021年の全国調査において、第1子出産後の妻の就業継続者の割合は5割超に上昇した。

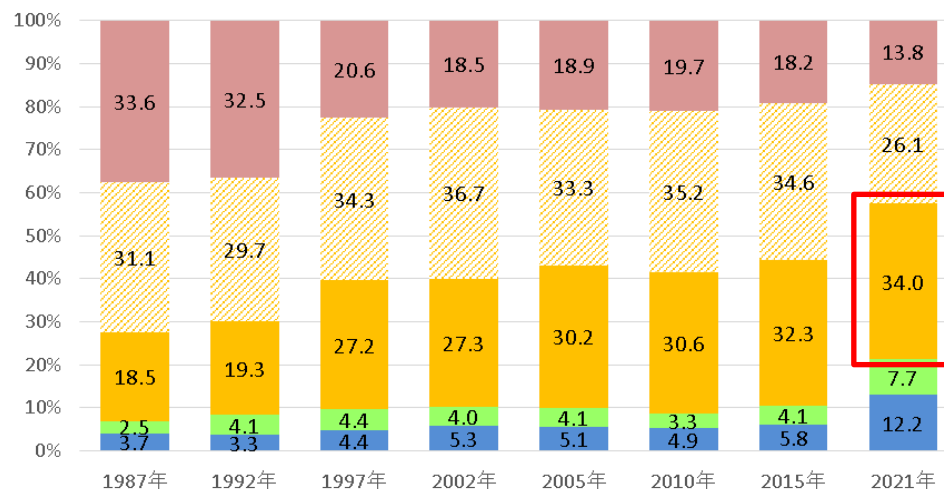


出典：国立社会保障・人口問題研究所 「第16回出生動向基本調査（夫婦調査）」 （2021年）

未婚者の理想のライフコース

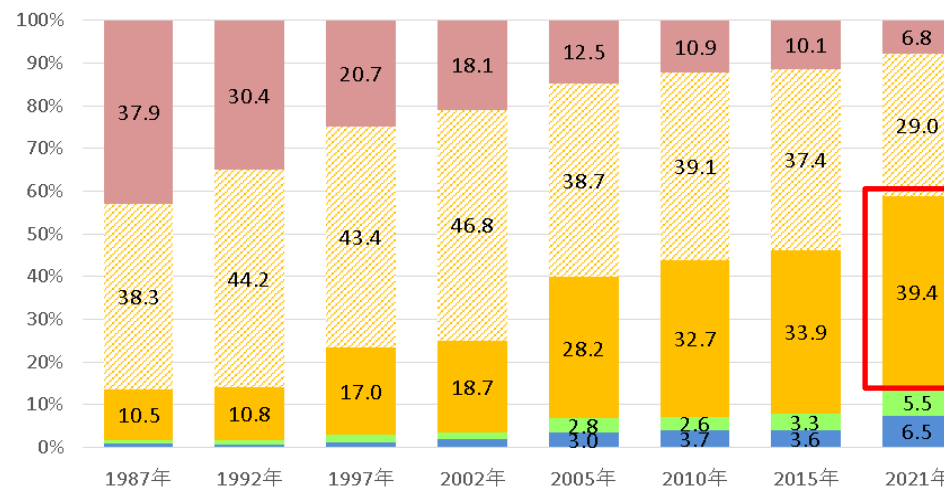
➤ 2021年の全国調査において、女性も男性も、両立コース「結婚し、子供を持つが、仕事も続ける」が初めて最多となった。

【18～34歳の未婚女性の理想のライフコース】



- 専業主婦コース
- ▨ 再就職コース
- 両立コース
- DINKsコース
- 非婚就業コース

【18～34歳の未婚男性がパートナーに望むライフコース】



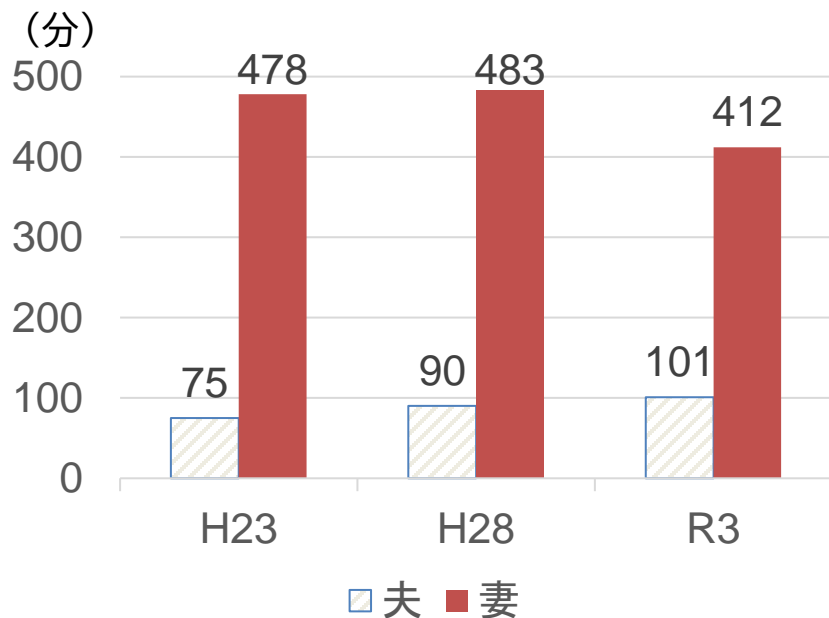
出典：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2021年）

家事・育児等を行っている時間

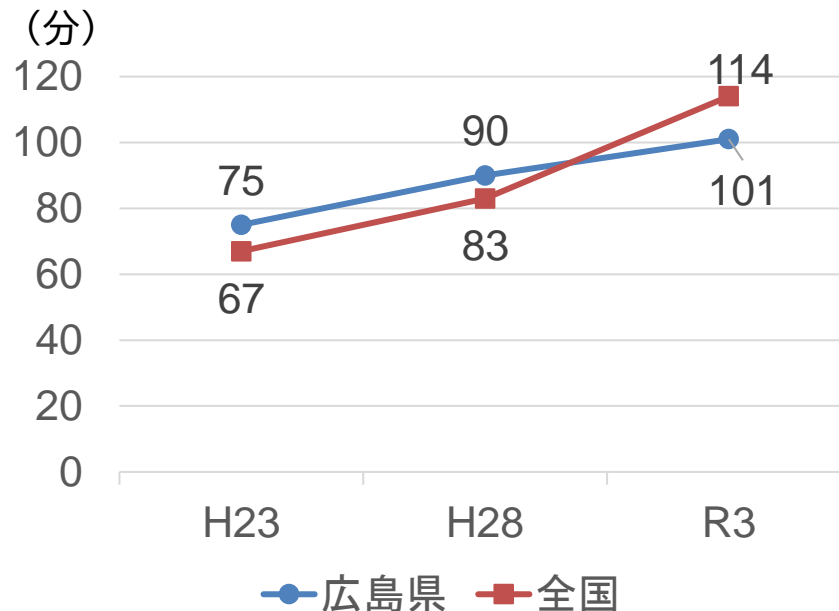
➤ 広島県の夫の家事・育児関連時間（注）は、年々増加しているが、R3では101分と妻（412分）の約4分の1であり、妻に負担が偏っている傾向がある。

（注）「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の時間の合計

家事・育児関連時間（広島県）



(夫) 家事・育児関連時間

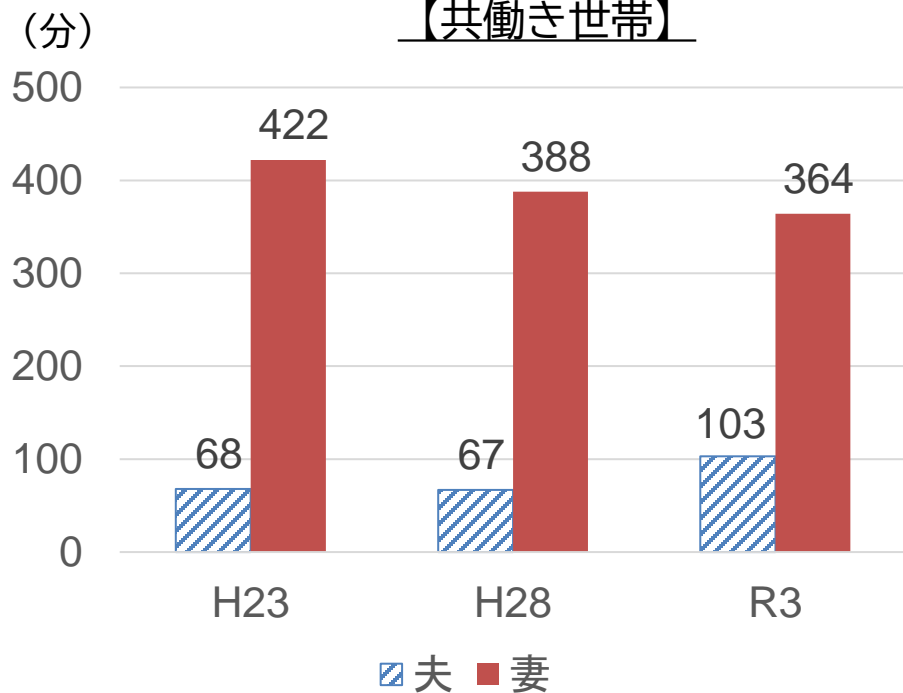


（令和3年社会生活基本調査）
※6歳未満の子のいる世帯、子供と夫婦から成る世帯

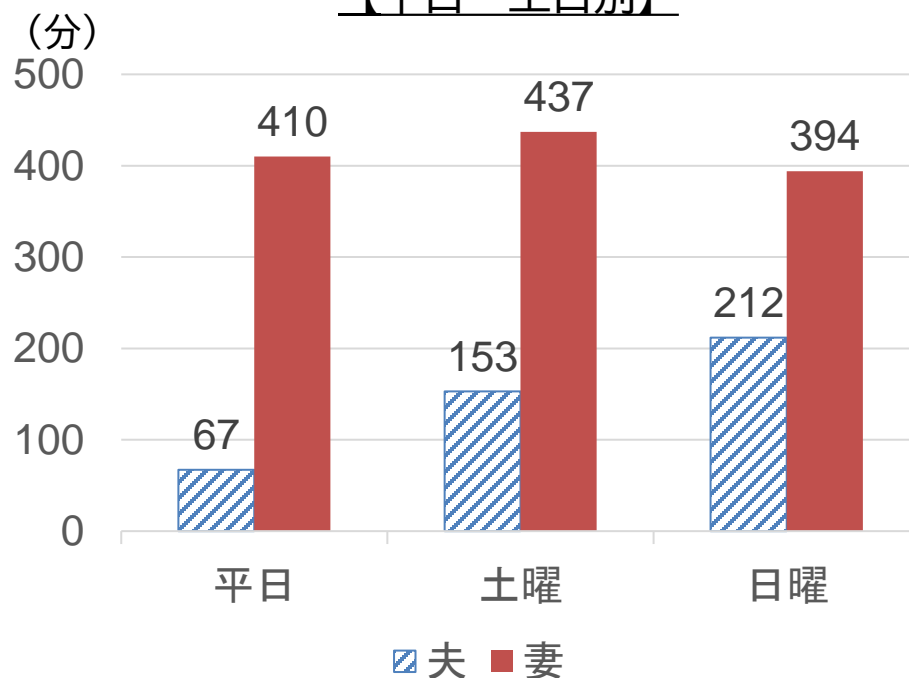
家事・育児等を行っている時間（共働き世帯、平日・土日別）

- 共働き世帯でも、夫の家事・育児関連時間は増加傾向、妻の同時間は減少傾向にあるが、R3では夫103分、妻364分と約3.6倍の開きがあり、妻に負担が偏っている傾向がある。
- また、平日・土日別で見ると、日曜（212分）は平日（67分）の約3倍長かったが、妻（394分）の約半分であった。

家事・育児関連時間（広島県）
【共働き世帯】



家事・育児関連時間(R3)
【平日・土日別】



(令和3年社会生活基本調査)
※6歳未満の子のいる世帯、子供と夫婦から成る世帯

【参考】とるだけ育休の実態（民間調査）

➤ 民間調査において、男性34.8%、女性42.0%が夫が取得した育休は「とるだけ育休」と回答している。

男性の育休は「とるだけ育休」だと思う割合

Q. あなた（男性は自身、女性は夫）の育休の取得が正直「とるだけ育休」になっていたと思いますか？（スコアは「そう思う」）

